

第8回JR肥薩線検討会議

日 時：令和6年6月18日（火）16：00～16：30

場 所：熊本県防災センター 2階 災害対策本部会議室

【冒頭挨拶】

○岡野審議官（国交省）

国土交通省の岡野でございます。第8回JR肥薩線検討会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

令和4年3月に第1回検討会議が開催されて以来、復旧方法や復旧後のあり方などについて、皆様と議論を重ねて参りました。

令和4年5月の第2回検討会議では、河川や道路の災害復旧との事業間連携によって、235億円という復旧事業費を大幅に圧縮するとの方針が示されました。

その後、関係者の精力的な議論の結果、今年4月の第7回検討会議において、熊本県とJR九州の間で上下分離方式の導入や観光振興・日常利用の創出の具体化、こういったことについて認識を共有し、鉄道での復旧を目指す方向性について合意がなされました。

この基本合意に至ったことは大変意義深く受け止めており、改めて関係者の皆様方のご努力に感謝を申し上げます。

本日は熊本県より、今年度末の最終合意に向けて、深度化が必要な検討事項をまとめたロードマップの説明があると聞いております。

本日の会合においても、ご出席の皆様から、忌憚ないご意見、活発な議論がなされることを期待しております。また、国土交通省といたしましても、今年度末までの最終合意に向けて引き続き支援をさせていただきたいと思っております。

以上、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

○亀崎副知事（熊本県）

4月24日付で熊本県副知事に就任いたしました、亀崎です。田嶋前副知事を引き継ぎ、球磨川流域の復興に必要な肥薩線の、一日も早い復旧を目指し、一生懸命取り組んで参りたいと考えております。特に肥薩線の復旧は球磨川流域の復興に不可欠なものと考えています。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど、岡野審議官のご挨拶にもございましたように、4月3日の第7回検討会議におきましては、鉄道の持続可能性を高めるため、観光利用と日常利用を2本の柱として、しっかりと利活用に取り組んでいくことの確認がなされました。

J R九州から「鉄道で復旧する方向性について合意したい」との御回答をいただき、これを受け、翌4日に、県とJ R九州との間で、基本合意書を取り交わすことができました。

国土交通省鉄道局、九州地方整備局、九州運輸局をはじめ、皆さまの多大なる御支援・御協力に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

この基本合意を受けまして、今月6月6日に地元による再生協議会を開催しました。この協議会では、鉄道の利活用等について、県と地元12市町村がしっかりと検討を深度化させ、一丸となって今年度末の最終合意を目指すことを確認したところです。

また、人吉市からは、この春に惜しまれながら引退しましたS L人吉について、秋頃に里帰りイベントを盛大に行い、機運醸成に弾みをつけるとの御報告がありました。

本日は、ロードマップ、最終合意に向けた今年度の議論の進め方や、スケジュールの大枠について県から御報告させていただきます。皆様には御意見・御助言をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【意見交換】

○松下総合企画本部長（J R九州）

J R九州の松下でございます。先ほどからお話がございますけども、4月3日に開催されましたこの肥薩線検討会議で、肥薩線を鉄道で復旧する方向性について、合意をしたところでございます。熊本県におかれましては、4月4日に取り交わした基本合意書に基づいて、誠実に協議いただいております、この場を借りまして感謝申し上げます。ありがとうございます。

当社としましても、熊本県からご説明がありましたロードマップに基づき、2024年度末の鉄道復旧に向けた最終合意を目指して、引き続き関係者の皆様と協議をしてまいりたいと考えております。

そのためにも、ご説明がございましたプロジェクト推進ワーキンググループについては、当社も参加をさせていただいて、「観光を軸とした日本一の地方創生モデルの実現」、それから「マイレール意識の醸成による日常利用の創出」の具体化・深度化について、当社がこれまで培ってきました知見を生かしながら、ご協力をさせていただきたいと考えております。

また、国土交通省におかれましては、河川や道路事業との事業間連携、また鉄道軌道整備法に基づく補助の取り扱い等の点につきまして、引き続きご協力、ご助言を賜りますよう、改めてよろしくお願いいたします。以上でございます。

○森戸局長（九州地方整備局）

九州地方整備局の森戸でございます。私どもは、先ほどご説明のありましたロードマップ案の4. 復旧工事の協議の支援がメインになると考えております。冒頭、岡野審議官からのご挨拶の中でもありました第2回検討会議で、大幅な事業費の圧縮に向けた河川と道路の事業間連携について、提示させていただきました。

球磨川関連の私どもの復旧工事の状況につきましては、まず河川事業におきましては、遊水地の整備、宅地のかさ上げ等、着実に進んでおります。また道路につきましても、被災して流出した橋梁のうち、国で代行をさせていただいている橋梁において、下部工が立ち上がっており、上部工が架かり始めたところもでございます。

着実に復旧をしておりますけれども、すでにJR九州の軌道敷を工事用道路として使わせていただいております。今後の肥薩線の復旧に向けて、JR九州と連携をしっかりとさせていただきながら、できる限りのご協力をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○森次長（吉永局長の代理・九州運輸局）

本年4月、熊本県とJR九州の間で、鉄道での復旧を目指す基本合意がありました。関係の皆様のご努力に改めて敬意を表するとともに、九州運輸局としても、重く受け止めています。

年度末の最終合意に向け、基本合意書の内容を深度化するために、新たに観光需要と日常利用の2つの部会を設置しました。九州運輸局といたしましても、この2つの部会に積極的に参画し、地域の活性化に資する実効的な施策を策定できるよう、関係の皆様としっかりと協力してまいります。

また、この施策を推進するにあたり、観光利用や日常利用の施策を深度化する際には、私どもの補助制度として用意しております再構築調査事業の枠組みを活用していただくと思っております。

今後も、熊本県をはじめとする自治体の皆様、沿線の地域の皆様、JR九州をはじめとする関係の皆様のお声を拝聴し、また本省鉄道局、観光庁とも連携し、できる限りの協力をさせていただきます。

○亀崎副知事（熊本県）

先ほど松下本部長から、基本合意に基づきまして、真摯に協議を重ねているとお話がありました。私どもも、その気持ちを忘れずに、真摯にロードマップに沿って進めていきたいと思っております。

先程、前回再生協議会で、地元住民の皆様が、非常に（肥薩線復旧への）思いが強く、1つになって、一丸となっていると申し上げましたけれども、最終合意に

向けて、しっかりやる覚悟でございます。

その中で、先ほど森戸局長からは、球磨川の復興の中で色々とお知恵をいただきながら、肥薩線の復旧に向けてご尽力をいただいていること、また森次長からは、今回も活用いたします予算の運用についてお話がありましたが、皆様のご指導、ご支援あつての、これからの先の道のりだと思っております。

岡野審議官におかれましても、色々のご指導いただきたく思います。まずは我々の思いをこの1年のロードマップの中で、取組みとしてしっかり反映していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

【まとめ】

○岡野審議官（国交省）

本日の検討会議、お疲れ様でした。本日の会議では、熊本県から「JR肥薩線の鉄道復旧に係る最終協議に向けたロードマップ」について説明がなされました。最終合意に向けて関係者が一体となって各種施策・取組を進めていく指針が共有されました。

このうち、「観光による振興」「日常利用の創出」の2本柱については、復旧前後の利活用促進に向けて関係者が取り組む施策の具体化・深度化を図るため、国の調査費を活用することが決まったと認識しております。

このほか、復旧や復旧後の運営のあり方、復旧工事の進め方や、地元による機運醸成の取り組み等それぞれの検討事項について、関係者で議論を深度化させ、今年度末の最終合意につなげる必要があると考えております。

国土交通省としては、熊本県、JR九州の両者が納得する形で今年度末までに最終合意ができるよう、九州地方整備局・九州運輸局と連携して、引き続きしっかりサポートしてまいります。引き続きどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。